

SDGs 達成に向けた取組み

ドナー休暇制度の導入



目的・背景

弊社社員がドナーとして骨髄提供したという身近な出来事から、ドナー休暇制度の必要性を感じたことが制度導入の背景にあります。公益財団法人日本骨髄バンクによると、ドナー提供はなかなか思うように進まないことが多いそうです。ドナー候補者として選ばれても、仕事等の都合がつかなくなったり、その他の理由で辞退されたりする方が大勢おり、移植を希望しても受けられない患者さんがいるのが現状です。こうした状況を少しでも改善するべく、人命尊重を第一とし、ドナー休暇制度を導入しました。

具体的な取組内容

令和 5 年 10 月 23 日にドナー休暇制度を施行しました。
また、ドナー休暇制度の PR 活動を行っている公益財団法人日本骨髄バンクにも制度導入の連絡を行いました。

【ドナー休暇制度とは】

ドナーとして骨髄提供するまでには、10 日程度、医療機関に入通院する必要があり、仕事等の調整をしなければなりません。実際、提供を希望しても仕事等の都合がつかず、提供を諦めるというケースが多く起きています。ドナーが安心して骨髄提供ができるように、特別休暇を付与する制度が“ドナー休暇制度”になります。

成果

制度施行後の骨髄提供の実績はまだありませんが、ドナー休暇制度の導入によって、社員が安心して骨髄提供ができる環境作りができました。また、社員がドナーの現状やドナー登録について知るきっかけにもなりました。

担当者の思い

これまで様々な SDGs に関する取組みを行ってきましたが、SDGs の全ての目標を達成するまでにはまだまだ多種多様な取組みを行っていく必要があります。また、これまでに行った取組みについて継続していくことも大切なことです。今後も少しでも貢献ができるように、小さな事からでも取り組んでいきたいと考えています。

〈財務部 部長代理 内田 悠介〉

